2022年9月
AUTUMN
第5号

ENGAWA Project
iTOP, Kyushu Univ.

エンガワ

あなたとつながる、縁側系広報誌。

05

ENGAWA Project , from iTOP　maebaru.engawa@gmail.com

https://maebaruengawa.wixsite.com/engawa-gallery

黒木 恵介
けーすけ

槇野 裕太
じょーじ

ラヂオいとしま
こちらから聞けます！

ラヂオいとしま

ラヂオを通して人をつなげ、
まちのみんなを元気にする！

2021年4月より開局した糸島のコミュニティーラジオYoutube「ラヂオいとしま」。私たちENGAWA Projectは、毎週木曜12:15~「iTOPラヂオ」という番組にて「The first voice」というコーナーを放送しています。
日常的なテーマをはじめ、学生だからこそ話せるちょっと踏み込み過ぎでは？というテーマなどについて語っています。
内容に応じて収録場所を「ギャラリー 深淵のカシスシャーベット」と「コミュニティースペース みんなの」で使い分けている点も見どころです！
放送内の常識クイズにて「呉越同舟」が書けなかった筆者は、友人や地域の人に会うたびに「ゴエツドウシュウ書ける？(煽)」と言われます…。また、先日会った地元宮崎の友人からも「Youtube見てるよ！」と言われ、恥ずかしい反面見てもらえていることがとても嬉しかったです。糸島の一つのPRになっていれば幸いです。
iTOPラヂオでは他にも「EATALK」「いとしまらないラヂオ」というコーナーもあります。ぜひお聞きください。

column fileOS
発行開始から1年を迎えて...

得津 京佳
けいか

昨年の9月から作成をはじめた広報誌「エンガワ」。本号で開始から１年を迎えました。
広報誌「エンガワ」の発起人として枠を頂いたので、ありがたくここに言葉を残させていただきます。

● 学生団体の「１年」
毎号トピックの飾りに「新しい挑戦」という言葉を準備しては、前回もその言葉使ったよね？とよくチームで議論になりました。
そんな調子で紹介したくなってしまうくらい、学生団体の1年は変化し、挑戦し続けるものなのだと、私自身全く驚かされました。
昨年「新しい挑戦」と題して始めたこの広報誌も今では、後輩たちが中心になってつくってくれています。
前号（2022年6月号）の編集者に私の名前がないことは、手から離れた寂しさと同時に、なんだか誇らしいことでもありました。

●手紙のような広報誌をめざして
広報誌がきっかけで、糸島新聞に団体の紹介記事を掲載していただきました。そこから地域の方にお電話いただいたりと、、！
私たちの広報誌は、つくり配って満足するものではありません。
地域のみなさまとのお話のきっかけになることが一番うれしいことです。
今後ともどうぞお付き合いくださいませ。

巡ル倶楽部の"ウラガワ"に迫る!!!

巡ル倶楽部（めぐるくらぶ）。7/29～31の三日間、前原商店街でリメイクワークショップを開催した九州大学の学生４人組。メンバーは以前から親交のあった岩崎桃子、附柴元亮、冨田里奈、仲村怜夏の４人。それぞれが独自の強みを活かしながら短期間で企画・準備を行い、イベント開催に至った。
※附柴さん、冨田さんはZoom上でインタビュー

1　結成のきっかけ

Q．巡ル倶楽部を結成した経緯は？

岩崎　もとから前原に足を運んでて。いとしまちカンパニーの下田さんに出会って、空き店舗を使って何か楽しいことすればいいじゃん！と言われて仲間を探し始めたんよ。そしたら3人がすごいリアクションしてくれて、アイデアまだないけどやってみようって結成した、かな？

仲村　人と直接触れ合う機会ていいなって思ってて。スキルの凹凸がある皆でやれば面白そうだねって話が弾んでいきました。

Q．なんでファッション系の方向に？

岩崎・仲村　それは…笑

仲村　ぶっちゃけ、誰も（ファッションに）興味はなくて。前日に企画会議という名の飲み会を…笑　その時に、リメイク系のサービスから着想を得て「面白そう！これで企画出してみようか」って。

Q．前原の大人たちの反応は？

仲村　否定から入らないので、盛り上がりました。下田さんたちからは、廃棄寸前の洋服とかを使えば前原商店街のものが循環するしいいねって言ってもらえたんです。

急にきれいにはまって。そこからはもう早かったよね。

Q．材料集めはどんな感じで？

岩崎　会場にあったり、他のお店も回って説明して、衣類などをいただいたかな。親切な方々でした。

2　イベントの反響

Q．インスタでも盛り上がっていたという印象ですが、何人くらい来られたんですか？

岩崎　三日で5～60人来てて、そう聞くと普通の小売だと少なく感じますけど、皆さん割と長く滞在しているので結構多かったのかなと思ってます。

仲村　インスタ載せてくれた人多かったよね、行った感想と自分で作った作品とか。あとメンションとしてくれたのがすごいダイレクトに繋がれた感じがして嬉しかった。

髙田　3日間開催だったからこそ、開催しているうちにも広報できてよかったのかなって感じますね。

Q．イベント後の反響で印象に残っていることはありますか？

仲村　お子さん連れの方がすごい多くって、子供と一緒に来て、子供も自分もやるみたいな形ですごい良かったんですけど、その方達がいっぱいインスタに上げててくれて、明日も行きたいみたいに言ってくれたりとか。あと、子供だと汚しちゃうとか色々あって、何も気にせずに制作に没頭していいよっていう空間って意外とないっていうのを親御さんが話されてて、子供がすごく楽しそうだったからありがとうございましたって言ってくれて、嬉しかったですね。

3　成功した秘訣

岩崎　前原って世話好きな人が多いかもなって。直接お願いすると、学生の頑張りに喜んで力を貸してくれる人が多くて、結構甘えられました。

冨田　最近だと多くのことがオンラインで完結できてしまうけど、このようなイベントごとにおいてはフェイストゥフェイスの関わり合いが大切だと思いました。

附柴　次のイベントをやるしたら、もっと前原に訪れることで、更に良いものをつくれる気がしています。

インタビュアー
奈須　慈央（しおん）
ENGAWA project 所属。
九州大学共創学部1年。
髙田 侑輝（たかたん）
ENGAWA project 所属。
九州大学工学部建築学科1年。

あなたとつながる、縁側系広報誌。

縁側は古くから、外の空間と部屋との間にある曖昧な空間として日本家屋独自の
意匠となっています。ご近所さんを出迎え話し込んだり、天気のよい日に
日なたぼっこをしたりと、気軽な交流や憩いの場として親しまれています。
そのようななにかを大学生として作りたい―。
それはありふれた建物としての縁側でも、型にはまったSNSでもなく、
手紙のような手渡しされる広報誌なのではないかと考えました。
これはみなさまに見守っていただきたい、私たちのちょっとした挑戦です。

the editors　得津 京佳 / 黒木 恵介 / 槇野 裕太 / 矢野 叶翔 / 一ノ瀬 珠里 /
奈須 慈央 / 高田 侑輝 / 高畑 真衣

ENGAWA Project .

ENGAWA Project
from iTOP, Kyushu Univ.

九州大学公認地域活性化団体iTOPで活動しているプロジェクトのひとつ。「筑前前原を学生団体に」を使命に、シェアハウスやイベントスペース、学生居酒屋の運営を行っている。

@ENGAWAproject.maebaru　@engawa_project　@AprojectEngaw